

UICC日本委員会
Japan National Committee for UICC

ニュースレター

No.

31

事務局 公益財団法人がん研究会 がん研究所
〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31
Tel: 03-3570-0542 Fax: 03-3570-0546

July, 2026

uiccjapan@jfcf.or.jp

ごあいさつ

UICC日本委員会委員長

野田 哲生



平素よりUICC日本委員会の活動につきましては、多くのステークホルダーの皆様から多大なご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

当委員会では日本国内において様々な対がん活動を推進しておりますが、当委員会に於ける一大イベントは毎年2月4日のワールドキャンサーデーイベントです。今年も2026年の2月4日（水）にライトアップイベントやライブセッションを開催することができました。

今年はUICC本部が定めた3年間のキャンペーン「United by Unique」の2年目となります。UICC日本委員会は、2009年からほぼ毎年恒例として、この記念日

に合わせてシンポジウムやライトアップイベント等を開催して参りました。今年も当会の吉田富三記念講堂を本部（配信基地局）とし、ゲストに俳優・秋野暢子さんをお招きして、オンライン配信によるライトアップ点灯式「ライトアップ ザ ワールド -未来にひかりをつなぐ」を開催、その後にライブセッション（日本委員会主催セッション）、オンデマンド配信によるワールドキャンサーデーセッション（メンバー組織主催セッション6テーマ）を実施致しました。

ゲストの秋野暢子さんには昨年に引き続き2年連続でご登壇いただきました。ご多忙の折、快くお引き受け

くださり心より御礼申し上げます。

ライトアップ実施にあたりましては、本委員会メンバー組織や有志の皆様からご協力頂き、今年も全国で計16か所の施設ライトアップを実現することができました。

また、点灯式後のライブセッション「これからのがん予防とがん医療を知る!」では、今後、がん予防とがん医療はどのような変貌を遂げ、どのように我々をがんから救ってくれるのか、UICC日本委員会の中心的なメンバー組織である、日本癌治療学会や日本癌学会から、当該研究領域を代表する研究者の方々を演者としてお招きし、とても有意義なセッションとなりました。

本イベント開催に向けましては、特設サイト (URL <https://worldcancerday-jp.org/>) をベースにキャンペー

ンを展開し、YouTube動画による点灯式とライブセッションの配信、オンデマンドによるワールドキャンサーデーセッションの公開を行うなど、盛りだくさんのコンテンツを多くの人々に視聴して頂ける環境を整備しました。

これらライトアップイベントの模様やワールドキャンサーデーセッション等は、特設サイトから現在もご覧頂けますので、是非、皆様アクセスしてみてください。

今回のワールドキャンサーデーイベントも無事にライトアップ点灯式並びにワールドキャンサーデーセッションの公開を行うことができました。これもひとえに皆様方のご支援とご協力の賜物と心より御礼申し上げます。引き続き、当委員会へのご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



CONTENTS

挨拶	野田 哲生	1
ワールドキャンサーデー		3
ライトアップ ザ ワールド.....		4
ワールドキャンサーデーオンデマンド配信セッション		7
事前告知.....		9
報道・掲載		13
UICCワールドキャンサーデー2026に参加して	埼玉県立がんセンター 神田 浩明	15
ワールドキャンサーデーのライトアップに参加して	金沢大学 大島 正伸	16
雪の南砺にともす、希望の光.....	南砺市・光教寺 水林 慶子	17
「がんとともに生きる力」を高める運動.....	東京大学 佐々木一茂	18
ワールドキャンサーデーイベント運営後記	がん研究会 関本 敏之	19
世界がんリーダーズ・サミット2025に参加して	アジアがんフォーラム 河原ノリエ	20
TNM悪性腫瘍の分類 第9版 日本語版		21
16年目を迎えた「アジアでがんを生き延びる」		22
UICC ARO.....		23
UICC 日本委員会 加盟組織・役員		24

ワールドキャンサーデー

2026年2月4日(水)

オンライン開催
YouTubeにてライブ配信



ライトアップ ザ ワールド 17:30~18:15 <https://worldcancerday-jp.org>



ゲスト: 秋野 暢子 さん

国際対がん連合(略称UICC)日本委員会では、2026年2月4日(水)ワールドキャンサーデーに、全国各地のライトアップ会場と繋げ、ライトアップイベントをオンラインにて開催します。ワールドキャンサーデーは、毎年2月4日にひとりひとりが、がんに関する意識を高め、知識を増やし、この病気に対して行動を起こすことを目的として、世界が一体となって各地でさまざまな取り組みを行う日です。

世界各地をライトアップするUICCのイベントである「Light Up the world」と連動して、全国各地のライトアップ会場にて、点灯合図にあわせてUICCカラーの「ブルー」「オレンジ」へとライトアップを行います。ライトアップの様子はオンラインにて配信。共有しあい、思いをつにし、日本ががんに立ち向かう決意を、日本・世界に発信いたします。2025年から3年間のワールドキャンサーデーのテーマは、「United by Unique」です。



上野賢一郎厚生労働大臣よりメッセージ

ライトアップ点灯式 ー未来に光を繋ぐー

日本各地でライトアップの点灯式をおこない、日本国内のみならず世界にむけて、がんに立ち向かう想いを発信します。



新潟日報メディアシップ



仙台スカイキャンドル



広尾サンタランドイルミネーション



北海道



世界遺産 相倉合掌造り集落



高山市 中橋



金沢



東京



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



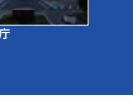
金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



金沢



野田 哲生

UICC日本委員会委員長
(がん研究会名誉研究員)



中 釜 斉

UICC日本委員会幹事
(日本医療研究開発機構理事長)



垣添 忠生

UICC日本委員会幹事
(日本対がん協会会長)



河原 ノリエ

UICC日本委員会広報委員長
(東京大学総合文化研究科特任准教授)



王 貞治 さん
福岡ソフトバンクホークス
取締役会長

ライブセッション

「これからのがん予防とがん医療を知る!」

ライトアップ点灯式に引き続き、同じサイト内でライブセッションを行います。

近年、がん研究領域には各種の革新的研究手法が導入され、ヒトがんに関する新たなエビデンスが数多く得られています。

そして、そうした多様なエビデンスに基づいて、新たながん予防法やがん治療法が開発されつつあり、今後のがん予防・がん医療は、大きく変貌を遂げることが期待されています。

そこで、今年のライブセッションでは、UICC日本委員会の中心的なメンバー組織である、日本癌治療学会や日本癌学会から、当該研究領域を代表する研究者の方々を演者としてお招きし、今後、がん予防とがん医療はどのような変貌を遂げ、どのように我々をがんから救ってくれるのかを教えてください。

司会 吉野孝之(日本癌治療学会)
大島正伸(日本癌学会)
間野博行(国立がん研究センター)

講演 松尾恵太郎(愛知県がんセンター研究所)
本田 一文(日本医科大学大学院医学研究科)
富樫 庸介(岡山大学大学院医学歯学域)



主催
UICC日本委員会
www.jfcr.or.jp/UICC

協賛
iTMS 株式会社
エグザクトサイエンス株式会社
株式会社ファルコバイオシステムズ

ワールド キャンサー デー

ライトアップ ザ ワールド —未来に光を繋ぐ—

ワールドキャンサーデー(以下、WCD)は、2000年2月4日・パリ開催のがんサミットに起源を持つ国際的ながん対策啓発の記念日です。UICC(国際対がん連合)主導の下、世界中の人々ががんに関して一致団結し、行動を起こすための約束をすることを目的としています。

2025年から3年間のテーマは「United By Unique」です。

開催日時：2026年2月4日(水)

ゲスト：秋野 暢子さん(女優)

出席者：野田 哲生(UICC日本委員会委員長・
がん研究会がん研究所所長)

中釜 斉(UICC日本委員会幹事・
国立がん研究センター理事長)

垣添 忠生(UICC日本委員会幹事・
日本対がん協会会長)

河原ノリエ(UICC日本委員会広報委員長・
東京大学東洋文化研究所特任准教授)

ご挨拶・要旨説明



野田 哲生
・UICC日本委員会委員長
・がん研究会がん研究所所長



中釜 斉
・UICC日本委員会幹事
・国立がん研究センター理事長



垣添 忠生
・UICC日本委員会幹事
・日本対がん協会会長

プログラム

第一部：ライトアップ点灯式

(17:30-18:15)

- ① オープニング、ビデオメッセージ
- ② ライトアップ点灯式
- ③ ゲストとのトークセッション
- ④ クロージング



河原ノリエ(司会進行)
・UICC日本委員会広報委員長
・東京大学院総合文化研究科特任准教授

ビデオメッセージ



新潟県立がんセンター 院長 田中 洋史 先生



愛知県がんセンター 総長 丹羽 康正 先生



岐阜大学 岐阜大学長 吉田 和弘 先生



日本癌学会 理事長 大島 正伸行 先生



日本癌治療学会 理事長 吉野 孝之 先生



国立がん研究センター 理事長 間野 博行 先生

メッセージ代読



「攻めの予防医療」の中でも、がん対策はとりわけ重要です。がんの克服を目指します。

厚生労働大臣 上野賢一郎 様



福岡ソフトバンクホークス
取締役会長 王貞治 様

この度、がんに立ち向かう気持ちを一つにする日「ワールドキャンサーデー」が開催されるにあたり、関係者の皆様の継続的なご尽力に対し、深く敬意を表します。

今から約20年前の2006年6月、体調の異変から検査をした結果、胃がんの宣告を受けました。医師より治療方針について説明を受け、家族とも相談のうえ、手術を受ける決断をいたしました。

治療を通じて、医療従事者の皆様をはじめ、家族や周囲の方々の支えが、回復において大きな役割を果たしていることを実感しました。がんと向き合う過程は、個人のみならず、多くの人々の関わりによって成り立つものであると感じています。

私はこれまで、野球に携わる中で多くの方々に支えられてきました。そこでもまた、個々の力だけでなく、周囲の想いと協力があってこそ、困難を乗り越えることができるという点は共通していると考えています。

本イベントが、がん患者の皆様およびご家族にとって、安心につながる情報と、前向きに向き合うための一助となることを期待するとともに、今後の取り組みのさらなる発展を心より祈念いたします。

ライトアップ点灯式 全国 16 会場で一斉にライトアップ点灯

- 【北海道】 広尾サンタランドイルミネーション
- 【宮城県】 仙台スカイキャンドル
[宮城県立がんセンター]
- 【栃木県】 栃木県庁昭和館
[栃木県立がんセンター・栃木県]
- 【埼玉県】 埼玉県立がんセンター
埼玉スタジアム2002
埼玉県立小児医療センター
[埼玉県立がんセンター]
- 【東京都】 東京都庁 [(公財) 日本対がん協会]
- 【神奈川県】 大船観音 [神奈川県立がんセンター]
- 【新潟県】 新潟日報メディアシップ
[新潟県立がんセンター新潟病院]
- 【富山県】 世界遺産相倉合掌造り集落
[(一社) アジアがんフォーラム・富山大学・
(公財) がん研究振興財団]
- 【石川県】 金沢城 (石川門) [日本癌学会・金沢大学]
- 【岐阜県】 高山市・中橋 [岐阜大学・高山市]
岐阜市役所 [岐阜大学]
- 【愛知県】 愛知県庁 [愛知県がんセンター]
- 【滋賀県】 彦根城 [彦根市]
- 【福岡県】 博多ポートタワー
[九州がんセンター・福岡市]

トークセッション



秋野 暢子 さん (ゲスト)



佐野 武
・UICC日本委員会TNM委員長
・がん研究会有明病院長



詳細はこちらから
<https://worldcancerday-jp.org/>

第二部：ライブセッション (18:45-19:45)

「これからのがん予防とがん医療を知る！」



座長



大島 正伸
日本癌学会理事長



間野 博行
国立がん研究センター理事長



吉野 孝之
日本癌治療学会理事長



オープニングリマーク
野田 哲生
UICC日本委員会委員長
がん研究会がん研究所長

講演① これからのがん予防— 変わらない基本と、新しい可能性

松尾 恵太郎

愛知県がんセンター研究所・がん予防研究分野分野長

がん予防の「最前線」と聞くと、特別な新しい方法があるように感じるかもしれませんが、がんを防ぐために本当に大切なことの多くは、長年の研究によってすでに明らかになっています。本講演では、喫煙や飲酒、食事、運動、体重管理、感染対策など、日常生活の中で実践でき、効果が確かめられてきたがん予防の基本を分かりやすく解説します。さらに近年の研究から、体質や遺伝子の違いを知ることで、一人ひとりに合った予防につなげられる可能性も出てきています。



講演② これからのがん診断 — 難治がんの早期診断の確立に向けて —

本田 一文

日本医科大学大学院・生体機能制御学分野教授

国が定めた「がん研究10か年戦略（第5次）」には、「がんの予防」に関する研究が掲げられ、1次・2次予防の実現に向けた発がんリスクの層別化・個別化を行い、個人に最適化されたがん予防を確立することが求められました。がんを早期に発見するためには、がん検診（2次予防）は欠かせません。近年、体液中の微量分子を網羅的に解析する技術や画像データをAIで統合解析する技術の発展に伴い、肺がんなどの難治がんにも新しい診断法が登場してきています。これからのがん早期診断の可能性について、わかりやすくお話しします。



講演③ がん免疫療法の未来を考える

富樫 庸介

岡山大学学術研究院・腫瘍微小環境学分野教授

免疫チェックポイント阻害薬に代表されるがん免疫療法の従来のがん治療とは異なり、もともと我々の身体に備わっている免疫の力を利用した治療です。様々なながんで効果が証明され、実際に使用され10年以上になります。完治したかのような患者さんがいる一方で、その効果はまだ十分とは言えません。しかしながら、そのよう患者さんの免疫細胞を細かく解析することで、様々なことがわかってきました。例えば制御性T細胞のがん免疫療法での役割も詳細にわかってきました。これらを基に未来のがん免疫療法を考えてみたいと思います。



詳細はこちらから

https://worldcancerday-jp.org/page_session_2026.html

ワールド キャンサー デー

オンデマンド配信セッション



愛知県がんセンター

当院における患者支援について
～いまを、未来を、あなたと共に～

登壇者：

鈴木 史朗(婦人科部長 AYA世代がん患者支援委員会委員長)



愛知県がんセンター

令和7年度第5回公開講座のご紹介

登壇者：

丹羽 康正(愛知県がんセンター 総長)

飲み込みの機能と障害について

埼玉県立がんセンター リハビリテーション科
言語聴覚士 森砂亜耶

埼玉県立がんセンター

飲み込みの機能と障害について

登壇者：

森砂亜耶(リハビリテーション科 言語聴覚士)

World Cancer Day 2026

がんと老いを、自分らしく生きる

— あなたを支える「早期からの緩和ケア」 —

新潟県立がんセンター新潟病院 緩和ケアチーム

新潟県立がんセンター新潟病院

がんと老いを、自分らしく生きる

— あなたを支える「早期からの緩和ケア」 —

登壇者：

緩和ケアチーム (新潟県立がんセンター新潟病院)



詳細はこちらから

https://worldcancerday-jp.org/page_session_mnbr_2026.html



一般社団法人アジアがんフォーラム

がん と 運動

ーがん専門医・運動の専門家が考えるー

登壇者：

松橋 延壽(岐阜大学大学院医学系研究科 教授・アジアがんフォーラム 理事)

河原 ノリエ(東京大学先端科学連携研究機構・総合文化研究科

特任准教授・アジアがんフォーラム 代表理事)

佐々木 一茂(東京大学先端科学連携研究機構・総合文化研究科 准教授)

田中 貴恵 (りん) (アジアがんフォーラム プロジェクトリサーチャー)



一般社団法人アジアがんフォーラム

がん と 医療DX

ー誰ひとり取り残さないがん医療を目指して

登壇者：

岩崎 南(山梨大学副 学長・アジアがんフォーラム 理事)

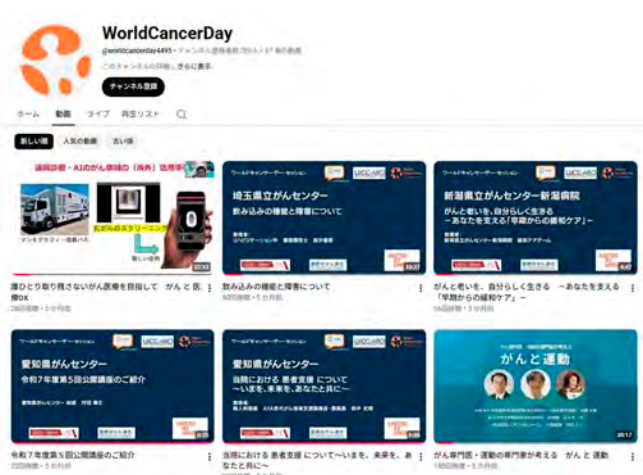
松橋 延壽(岐阜大学大学院医学系研究科 教授・アジアがんフォーラム 理事)

坂野 哲平(GENARK株式会社 代表取締役社長・アジアがんフォーラム 理事)

河原 ノリエ(東京大学先端科学連携研究機構・総合文化研究科

特任准教授・アジアがんフォーラム 代表理事)

- ・ 当日リアルタイム配信 (2時間20分)
- ・ オンデマンドセッション投稿 (4団体6動画)



協賛企業・団体

特別協賛



ITMS 株式会社

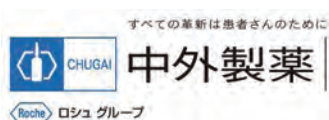


エグザクトサイエンス株式会社



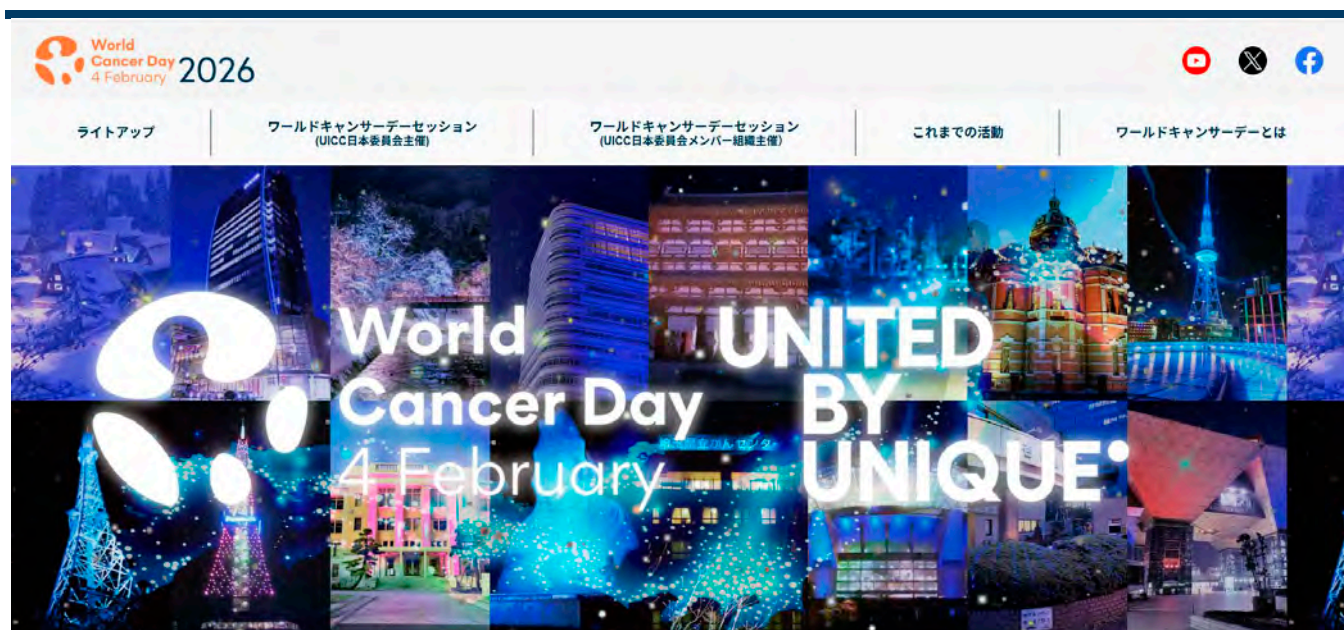
株式会社ファルコバイオシステムズ

協 賛



事前告知

- ・UICC日本委員会より、加盟メンバー組織へ告知
- ・厚労省記者クラブ、全国メディアにリリース配布
- ・関係機関へのチラシ配布による案内
- ・SNS (Facebook、X(旧Twitter)) での告知



URL : worldcancerday-jp.org

WCD2026 特設サイト
<https://worldcancerday-jp.org/>



UNITED BY UNIQUE ワールドキャンサーデー2026

最新記事 532件 100件以上 100件以上

更新日：2026年2月4日

2026年2月4日のワールドキャンサーデーにあたり、当センターの理事長、部長、部長からのメッセージをご紹介します。

「ワールドキャンサーデー（世界対がんデー）」は、がんに関する意識を高め、知識を増やし、がんに対して行動を起こすことを目的として、世界が一体となって各地でさまざまな取り組みを行う日です。

「ワールドキャンサーデーのスローガン（2025年～2027年）」は「UNITED BY UNIQUE」（一人ひとりの違いを超えて、がんに向き合おう）です。毎年2月4日には世界各地で、UICC（国際対がん連合）のテーマカラーであるブルーとオレンジのライトアップイベントが開催されています。

メッセージ/MESSAGE

理事長/研究所長 開野 博行

President/Director, National Cancer Center Research Institute
Hiroyuki Mano

国立がん研究センターでは、各部門がOne Centerとして力を結集し、新しいがん医療・がん予防を日本から世界に向けて発信して行くと共に、世界の新しい医療を日本に届けてまいります。今や多くの人に身近な病気である「がん」の克服を一緒に実現していきましょう。

National Cancer Center Japan unites the forces of all of our Divisions under "One Center" to promote new cancer treatments and prevention from Japan to the world, and to bring in new therapeutics from the world. Let's work all together to overcome cancer that is now popular to many people.



国立がん研究センター

国立がん研究センター東病院 教育・研修情報さんの投稿



国立がん研究センター東病院 教育・研修情報
2月4日



【ワールドキャンサーデー 2026 | 2月4日（水）】

2月4日はワールドキャンサーデー（世界対がんデー）。

がんに関する意識を高め、知識を増やし、がんに対して行動を起こすことを目的として、世界が一体となって各地でさまざまな取り組みを行う日です。

★2025～2027年のスローガンは、

「UNITED BY UNIQUE（一人ひとりの違いを超えて、がんに向き合おう）」

世界各地では、UICC（国際対がん連合）のテーマカラー、ブルー＆オレンジのライトアップイベントも開催されます。

★ライトアップイベント＆ライブセッションのお知らせ★

ワールドキャンサーデー2026にあわせて開催されるライトアップイベント(17:30～18:15)では、ゲストに秋野暢子さんをお迎えします。

さらに、18:45～19:45（予定）にはライブセッション『これからのがん予防とがん医療を知る！』を配信。司会は国立がん研究センター 理事長 開野博之と東病院 副院長 吉野孝之も担当いたします。

📺 イベントはYouTubeにてライブ配信!!

どなたでもご覧いただけますので、ぜひチェックしてみてください👉

<https://worldcancerday-jp.org/>

👉 当センター 理事長・部長・看護部長からのメッセージもHPに掲載中!!

みなさま、ぜひご覧ください👉

<https://www.ncc.go.jp/jp/information/WCD/index.html>

AMED



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

高度医療 医療機器 国際連携 アクセス 国際連携 メルマガ登録

AMEDについて



AMEDについて

・理事長挨拶
・中長期計画・年度計画・報告等
・事業・推進部門

・医療機器

・海外事業所の活動報告

・理念・運営方針等
・国内外機関との連携

取組

・情報公開
・研究への委託・市民参画（PPI）

・研究公正
・戦略的な研究開発の推進

・社会共創
・患者を考慮した研究開発の推進

開催概要

AMEDは、医療研究開発を社会と共に創り、医療研究開発で2030年社会を共に創るための「社会共創」の取組を推進しています。

令和8年2月4日（水）のワールドキャンサーデー2026にあわせて行われるイベント「ライトアップ サウンド」に、中野西AMED理事長がUICC日本委員会幹事として参加します。

UICCについて

UICC（Union for International Cancer Control）は、1933年に設立された世界的な広がりを持つ国際的ながん組織連合です。シェンゲンに本部を置く世界最大の対がんコミュニティで、現在は世界の172カ国から1200以上の機関が参加しています。国連経済社会理事会（ECOSOC）の特別機関であり、世界保健機関（WHO）、国際がん研究機関（IARC）、国際原子力機関（IAEA）、国際薬物乱用事務所（INODOC）と公的な関係を結んでいます。

ライトアップイベント「LIGHTUP THE WORLD」をUICCカラーである「ブルー」と「オレンジ」にライトアップし、思いをひとつにし、日本が「がん」に立ち向かう決意を世界に発信してまいります。

結核以来、研究者・医療従事者等の専門性による科学とエビデンスを中核としながら、様々な困難が重なり世界のがん医療の進歩と不平等の解消、がん対策が世界的に優先的な課題となるよう支援することをミッションとしています。

ワールドキャンサーデーのほか、世界がん会議や世界がんリーダーズサミットを開催し、宗の根から国際レベルまで、すべてのレベルでがん対策のためのアクションをリードしています。』
（引用元：ワールドキャンサーデー2025 UICC日本委員会 worldcancerday.）



トピックス

・事業に関するお知らせ

・イベント

・その他お知らせ

・掲載日一覧

愛知県

本文へ 読み上げが 言語 文字サイズ 拡大 縮小 背景色 白 黒 青

愛知県 Aichi Prefectural Government

防災情報 観光情報 事業者の方向け

目的からさがす 組織からさがす 分類からさがす

ホーム > 組織からさがす > 医療保健管理課 > 「国際対がん連合(UICC)ワールドキャンサーデー2026」への参加について

「国際対がん連合(UICC)ワールドキャンサーデー2026」への参加について

「国際対がん連合(UICC)ワールドキャンサーデー2026」への参加について

ページID:0625795 掲載日:2026年1月30日更新 印刷ページ表示



ワールドキャンサーデー(毎年2月4日)は、一人一人が、がんに関する意識を高め、この病気に対して行動を起こすことを目的として、世界各地で様々な取組を行う日です。

このため、国際対がん連合(UICC)日本委員会は、全国各地で同時に行われるライトアップの映像をオンラインでつなぐとともに、ワールドキャンサーデーセッションを開催します。

愛知県がんセンターでは、2021年から毎年ワールドキャンサーデーに参加していますが、今年も、がんに関する啓発や教育を行うため、下記のとおり愛知県庁本庁舎をライトアップするとともに、ライブセッション及びオンデマンドセッションを行います。なお、本イベントで愛知県庁本庁舎をライトアップするのは初めての取組です。

AI(人工知能)はこんなページをおすすめします

「世界脳卒中デー(10月29日)」に関する愛知県庁本庁舎ライトアップの場について

「世界COVIDデー(11月19日)」に関する愛知県庁本庁舎ライトアップの場について

「世界禁煙デー(5月31日)」に関する愛知県庁本庁舎ライトアップの場について

「オレシタリポリ・児童虐待防止推進週間(11月)」の取組として愛知県庁本庁舎をライトアップします

第43回愛知県地方議会審議会委員会の開催について

栃木県立がんセンター

Press Release



2026年1月21日

栃木県庁昭和館を青とオレンジにライトアップ ー2月4日「ワールドキャンサーデー」に合わせて実施ー

毎年2月4日は、国際対がん連合(UICC)が定める「ワールドキャンサーデー(世界対がんデー)」です。世界各地で、がんに対する理解促進や啓発活動が行われています。

栃木県立がんセンターでは、UICC 日本委員会が主催する「UICC ワールドキャンサーデー2026」の取組の一環として、2026年2月4日(水)に、栃木県庁昭和館をUICC のシンボルカラーである青とオレンジにライトアップします。本イベントは、昨年より昨年に続き3回目の実施となります。

当日は、国内外の施設が同時にライトアップを行い、オンラインを通じて世界とつながりながら、がん立ち向かうメッセージを共有します。栃木県庁昭和館もその一つとして参加し、県民の皆様に、がんへの関心を高めていただく機会とすることを目的としています。

また、点灯にあわせて、県庁前において啓発グッズの配布を行い、がん検診や早期発見の大切さを呼びかけます。

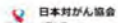
開催日時	2026年2月4日(水) 17:30~21:00
場所	栃木県庁昭和館
備考	当日は点灯にあわせ、17:30から県庁前において啓発グッズなどを配布します。※無くなり次第配布終了



お問い合わせ先
〒320-0834 栃木県宇都宮市鶴岡 4-9-13
地方独立行政法人栃木県立がんセンター 広報広聴センター(経営企画室内) 吉田
TEL.028-658-5151(代表) 【Eメール】 info@tochigi-cgc.jp



日本対がん協会



#ワールドキャンサーデーの4日夜、ライトアップイベント「Light Up the world」が開催され、世界各地のランドマークが国際対がん連合(UICC)カラーのブルーとオレンジに染まりました。写真は東京都庁ライトアップの様子です。ツインタワーの半分がブルーに、もう半分がオレンジに染められました。

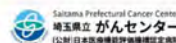
oワールドキャンサーデー2026の公式サイトでは、点灯式の模様とライブセッション「これからのがん予防とがん治療を知る！」のアーカイブをご覧ください。
<https://worldcancerday-jp.org/>

#WorldCancerDay
#UnitedByUnique 表示を縮小

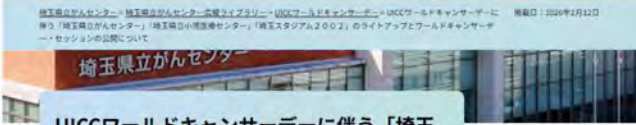


シニア10件

埼玉県立がんセンター



Aa 文字サイズ 色の変更 音声読み上げ 画面拡大 画面縮小 画面回転 画面移動 画面拡大 画面縮小 画面回転 画面移動



UICCワールドキャンサーデーに伴う「埼玉県立がんセンター」「埼玉県立小児医療センター」「埼玉スタジアム2002」のライトアップとワールドキャンサーデー・セッションの公開について

毎年2月4日のUICC(国際対がん連合)ワールドキャンサーデーは、世界中の人々が、がんのためにできることを考えて行動を起こす日です。「ライトアップ・ワールド」として世界各地の夜をブルーとオレンジの光に包み込み、ライトアップが行われます。

今年、埼玉県では「埼玉県立がんセンター」「埼玉県立小児医療センター」及び「埼玉スタジアム2002」をブルーでライトアップします。

1. 開催日の2月4日(水)のライトアップ色及び時間

【埼玉県立がんセンター】ブルー/17時50分~18時45分



金沢大学

文部科学省共同利用・共同研究拠点



京大大学がん進展制御研究所

Cancer Research Institute | Kyoto University

「めい肉」の検索 / リンク / アドレス

京都のがん研究を
促す公益財団

[お問い合わせ](#)
[研究活動の概要](#)
[研究施設・成果](#)
[シンポジウムと公開講座](#)
[協賛・協力機関](#)
[寄付・女性・人材育成](#)
[学術情報](#)

埼玉県立がんセンター

研究所からのお知らせ

Topics


お知らせ - 最新研究のニュースはこちら

[World Cancer Day イベント](#)

石川県からも World Cancer Day 2026を発信 ― 石川門ライトアップと大島正伸教授によるライブセッション司会（2月4日）

2026年2月4日（水）に開催される World Cancer Day Japan において、石川県では「世界の日（世界）」のライトアップが行われます。また、ライトアップイベント終了後に開催されるライブセッションでは、国際がん協会日本支部長が、日本学術振興会員として出席を希望いたします。

[World Cancer Day（ワールドキャンサーデー）]

World Cancer Day は、国際がん連合（UICC）が主導し、毎年2月4日に世界中で実施される、がんへの理解増進と予防意識を高めるとした国際デーです。患者・家族・医療従事者・研究者・社会が一体となり、がんに関与するすべての実態を把握していきます。

[Light Up the World（ライトアップワールド）]

当日17:30〜18:15には、日本発祥のライトアップイベントが開催され、がんへの理解と啓蒙のメッセージが国内外に発信されます。石川県では、「多岐浜（むらつり）」「夕陽門（ゆふかど）」のウォールド・キャンサー デーのシンボルカラーであるライトアップされます。ライトアップの様子もオンラインにて配信されます。

▶ 詳細はこちらをご覧ください。

[研究活動紹介](#)

- 1. 研究分野
- 2. 設備
- 3. 研究分野
- 4. ニュースレター
- 5. 医師・助産・共同研究や事業関係
- 6. 研究所について
- 7. 資料の提供
- 8. リンク
- 9. アドレス

彦根市

健康・福祉

**ワールドキャンサーデー
彦根城ライトアップイベント**

2月4日はUICC（国際対がん連合）ワールドキャンサーデーです。彦根城をUICCカラーのブルーとオレンジにライトアップします。がんは誰にでも起こりうる病気です。ブルーとオレンジ色の彦根城を上げて、がんという病気について知り、理解を深めましょう。

 2月4日(休日)夜～22:00
UICC 日本委員会事務局
☎ 03-3570-0435

2月4日は「ワールドキャンサーデー」です。

ワールドキャンサーデーは、ジュネーブにある国際対がん連合（UICC）本部がイニシアティブを取り、世界全体が一体となって対がん運動に取り組むことを促進するため、2000年にパリの世界がんサミットで採択されたパリ憲章によって毎年2月4日を記念日として定めたものです。

東京都では、「進一歩取り残さないがん対策を推進し、全ての市民とがんの克服を目指す」という目標の下に、がん対策に対する取り組みを、あらゆる世代に対するがんの理解促進及び啓発の推進の一環として、ライトアップを実施します。

掲載・報道

北日本新聞社

「がん」に理解を 南砺・相倉集落ライトアップ

2026年2月5日 05:00



写真



青とオレンジ色に照らし出された合掌造り家屋＝南砺市相倉

がんについて考え、行動する「ワールドキャンサーデー」の4日、富山県南砺市の世界遺産・相倉合掌造り集落など全国16カ所の建物がライトアップされた。

国際対がん連合日本委員会が企画した。午後6時に同連合のイメージカラーである青とオレンジ色の光で各会場を照らし、16カ所の点灯の様子はオンラインで生配信した。

相倉では集落内の1棟に5基のライトで、降り積もった雪を青色、樹木や窓明かりをオレンジ色に照らし出した。宿泊客らは幻想的な光に包まれた家屋に入っていた。相倉のライトアップはアジアがんフォーラム（河原ノリエ代表理事）や富山大、がん研究振興財団が協力した。

東京スポーツ新聞社

東スポWEB

東スポ最新ニュースをメルマガでGET！無料会員登録！

TOP エンタメ プロレス 野球 社会・事件 スポーツ
ジャーニズ お笑い テレビ・ラジオ YouTube 女子アナ アイドル アニメ・声優 映画



ワールドキャンサーデーイベントに出席した秋野暢子

秋野暢子 ワールドキャンサーデー点灯式で「がん治療」の重要性を訴え「病は知識から」

2026年2月4日 19:21

コメント 0

東スポWEB

女優の秋野暢子（69）が4日、都内で行われた国際対がん連合（UICC）日本委員会主催のワールドキャンサーデー2026「ライトアップ ザ ワールド」ライトアップ点灯式にゲスト参加した。

ワールドキャンサーデーは毎年2月4日に、がんに関する意識を高め、知識を増やし、病気に対して行動を起こすことを目的として、世界各地でさまざまな取り組みを行う日。この日、全国各地の協力施設が点灯の会とともに、UICCのテーマカラー「ブルー」「オレンジ」にライトアップされ、思いを共有した。

秋野は2022年6月にステージ3の頭部食道がんと診断され、治療を受け、23年に「寛解」を報告。昨年に続き2年連続の参加となった秋野は「とても光栄で、元気にまたうかがえたことが何よりです」と笑顔を見せた。

富山新聞社

トップ > 富山のニュース > オレンジと青、相倉照らす 世界がんデーライトアップ

オレンジと青、相倉照らす 世界がんデーライトアップ

地域

2026/2/5 05:00

記事を保存 切り抜き範囲



青色とオレンジ色の光で照らし出された合掌造りの民家＝4日午後6時、南砺市相倉

南砺市の世界遺産・相倉合掌造り集落で4日、がんに対する意識を高め、立ち向かう思いを一つにする「ワールドキャンサーデー」のライトアップが行われた。テーマカラーのオレンジ色と青色の光で合掌造り家屋が照らされ、インターネットで配信された。

世界遺産相倉合掌造り集落保存財団の職員が雪に覆われた集落の民家「勇助」の周囲にライトを配置し、夜の間に幻想的な風景を浮かび上がらせた。

UICC（国際対がん連合）の日本委員会がオンラインで点灯式を実施した。午後6時にカウントダウンが行われ、全国16カ所で一斉にライトアップが行われた。県内では相倉のみが参加し、北陸では金沢城公園石川門も照らされた。

スポーツ報知社

秋野暢子 食道がんの経験を踏まえて「病は知識から。病気がこわいのは知識がないから」

2026年2月4日 19時31分 スポーツ報知

芸能



ワールドキャンサーデーにゲスト出演した秋野暢子

女優の秋野暢子が4日、都内でワールドキャンサーデーのライトアップ点灯式にゲスト出演した。

【写真】「日本エレキテル連合」の白塗り→現在の姿に衝撃141歳のスッピン

2022年6月に食道がん罹患（りかん）して9月に退院した。それから約3年半が経過した。当時を振り返り「食事や睡眠も健康に気をつけて生活してきたので、がんの診断は青天霹靂、びっくりしました。健康をテーマに講演会もしていましたし、表現者として、発表していくことが必要だし、自分自身、納得できることだと思って病気を公表することを決めました」と語った。

主治医と話したり、本を読み、がんについて勉強したという。「病気がこわいのは知識がないから。『病は知識から』と言いますけど、『病は知識から』でもある。どうやって、どういう治療法があるのか、知っていれば、副作用も理解できる。こわい病気だと思

い込むと、より不安が募る。知識を入れることで、治療への懐疑心もなくなる」と力説した。

がん患者に向けて「ご自身が希望を失わないことが大事。その中で、どういう治療法を選んでいくか。諦めてはいけません。希望を持って笑顔でいる。なるべく笑顔で過ごして頑張ってください」とメッセージ。さらに「がんは、70年近く前は死の病でした。最近では助かる人が増えてきました。将来、がんはなくなるかもしれません。私は長生きすると決めています」と前向きに語った。

仙台放送社

CSRとサステナビリティ
TOP



English



番組表 Program Schedule	ニュース・天気 News & Weather	番組情報 Program	イベント Event	アナウンサー Announcer	WEBショップ Web Shop	会社案内 Profile	ご意見・ご要望 Contact us
-------------------------	---------------------------	-----------------	---------------	---------------------	---------------------	-----------------	-----------------------

HOME > 会社案内 > 仙台放送のCSRとサステナビリティ > 活動報告(2026/02/04)

会社概要MENU一覧

仙台スカイキャンドル「ワールドキャンサーデー」ライトアップ
「UICCワールドキャンサーデー2026」のシンボルカラー ブルー&オレンジにライトアップしました
2月4日に開催された「UICCワールドキャンサーデー2026」にあわせて、仙台スカイキャンドルをシンボルカラーのブルーとオレンジにライトアップしました。
この日は仙台のほか、福岡市など日本全国16か所でライトアップが行われました。

■ワールドキャンサーデー2026

United By Unique - UICC日本委員会 worldcancerday



UICCワールドキャンサーデー2026に参加して

埼玉県立がんセンター 病理診断科

神田 浩明

2026年のワールドキャンサーデーでは埼玉県立がんセンターはライトアップイベントとオンデマンドセッションに参加しました。

ライトアップは昨年同様、埼玉県立がんセンター、埼玉県立小児医療センター、さいたまスタジアム2002の3か所をライトアップしました。埼玉県立小児医療センターとさいたまスタジアム2002の撮影はスタッフを本部から派遣していただいたため、埼玉県立がんセンターは自院の撮影のみを担当しました。例年2月4日は風が強かったり、小雪が舞って寒さが強かったりとあまり撮影条件が良くないのですが、今年は穏やかな天候で風もなく、落ち着いて撮影ができました。ライトアップを見ていると、18時には北海道は暗くなっているのに九州はまだ明るく、日本列島の長さを感じられます。いろいろなところで同じイベントを行っているということが国内からもよくわかりました。

オンデマンドセッションはリハビリテーション科言語聴覚士の森沙亜耶さんが「飲み込みの機能と障害について」というテーマで講演を行ってくださいました。非常によくまとまった講演で、飲み込みの生理的解説から機能障害、リハビリ方法、埼玉県立がんセンターにおける取り組みまでよく紹介されています。このセッションは現在もYoutubeで見ることができます。ぜひご覧になってください。

埼玉県立がんセンター

飲み込みの機能と障害について

森沙亜耶 (リハビリテーション科 言語聴覚士)

<https://www.youtube.com/watch?v=N7iDHaInpDg>



ライトアップされた埼玉県立がんセンターと撮影チーム

ワールドキャンサーデーのライトアップに参加して

日本癌学会理事長・金沢大学がん進展制御研究所

大島 正伸

このたび、ワールドキャンサーデーの全国ライトアップイベントに、金沢市から初めて参加しました。昨年9月、私たちの地元である金沢市において、半世紀ぶりに日本癌学会学術総会が開催され、国内外から多くのがん研究者・がん医療者が参加し、最新の研究成果の共有が行われました。それとともに、日本癌学会では、がん患者やご家族・サポーターの皆さんとがん研究者が連携する「サバイバー・サイエンティスト・プログラム (SSP)」を推進しており、去年はこの活動を開始してから10周年という節目の年でもありました。

そこで学術総会に合わせて、金沢大学がん進展制御研究所の教職員が中心となり、地元の患者会やご家族の皆さん、がん研究者、臨床の先生方が一緒になって、金沢城公園は新丸広場の芝生の美しい約3kmのコースを、思い思いのペースで走り、歩くRun & Walkを開催しました。患者会の皆さんからも大変好評をいただき、日本癌学会学術総会で継続して開催することになりました。

その後、UICC日本委員会事務局からワールドキャンサーデーの全国ライトアップのご案内をいただき、ぜひRun & Walkを開催した金沢城でライトアップを実現したいと思いました。石川県の健康推進課に相談したところ、イベントの趣旨にご賛同いただき、金沢城のシンボルの一つである石川門の石垣をブルーにライトアップしていただくことになりました。当日、

私はUICC日本委員会のイベント参加のため、がん研究会がん研究所から、ゲストの秋野暢子さんとともに金沢城を含む全国各地のライトアップを見守りました。一方、金沢大学がん進展制御研究所からもSNS等を通じて案内を行い、金沢城では多くの観光客に混じって、がん研究者の皆さんもカウントダウンに参加し、雪の石川門がブルーにライトアップされる瞬間を楽しみました。

全国各地が同じ思いのもとにライトアップで結ばれる光景から、がん医療のさらなる発展を願う大きな一体感を感じると共に、地域社会が一緒になってがんについて考えることの大切さを改めて実感する機会となりました。日本癌学会としても、がん研究の発展を目指すとともに、がん研究者と患者・ご家族、そして社会をつなぐ活動をこれからも大切にしていきたいと思います。金沢から、ぜひ次回のワールドキャンサーデーにも参加したいと思います。このような貴重な機会をいただき、心より感謝申し上げます。



金沢城はライトの都合でオレンジが出来なかったのですが、ブルーで綺麗にライトアップされて印象的だったとご感想をいただきました。



雪の南砺にともす、希望の光

南砺市・光教寺住職／一般社団法人アジアがんフォーラム プロジェクトリサーチャー

水林 慶子

今年も二月四日のワールドキャンサードーに、私の地元、富山県南砺市でライトアップが行われました。深い雪に包まれた世界遺産の風景に、静かに光がともる。その光景を見つめながら、がんとともに生きる方々や、そのご家族に、この温かな光が届いてほしいと願いました。

雪深いこの地域で、冬の催しを開くことは容易ではありません。この日を迎えるために、地域の皆さんが力を合わせ、雪をかき、足元を整え、準備を重ねます。美しいライトアップを支えているのは、こうした一人ひとりの手と心です。私には、その営みそのものが、困難を抱える人を地域で支える姿と重なって見えました。

南砺の小さな地域から、日本各地へ、そして世界へ。がんという病気に向き合い、ともに乗り越えていこうという思いが、光を通してつながっていく。遠く離れた場所にも同じ願いを持つ人がいる。そのことを感じられるのが、ワールドキャンサードーの大きな力なのだと思います。

私の寺でも、これまでに垣添忠生先生をお迎えし、「歩くこと、生きること」をめぐって、皆さんと考える会を開きました。病気について知ることは、自分や大切な人の生き方を見つめ直すことでもあります。お話を聞き、思いを交わす場を、身近な地域の中につくる大切さを、改めて感じました。

お寺は、喜びの日にも、悲しみや不安の中にある日にも、人が訪れる場所です。病気への不安や、身近な人を思う気持ちを、安心して語れる場所でありたい。答えを急がず、まず耳を傾け、ともに考えることを大切にしたいと思っています。

ライトアップは一日の催しかもしれません。しかし、その日にともった思いを、日々のつながりの中で育てていくことはできます。雪の南砺にともる光を、一人ひとりの暮らしを照らす希望へ。これからも地域のお寺として、皆さんに寄り添いながら、がんの問題に向き合い続けてまいります。



光教寺にて開催してきた「生老病死」シリーズでは垣添先生のお話をうかがうことで地元の方たちのがんという病への理解が深まりました。

「がんとともに生きる力」を高める運動

東京大学 大学院総合文化研究科／スポーツ先端科学連携研究機構 准教授

佐々木 一茂

今回、私は初めてWorld Cancer Dayに参加し、「がんと運動—がん専門医・運動の専門家が考える—」と題したセッションでお話する機会をいただきました。世界中の人々が立場や専門分野を越えて、がんについて考えるこの取り組みに参加できたことを、大変うれしく思っています。

私からは、がん患者さんにとっての運動を、特に「筋肉」という視点から紹介しました。がん患者さんは、がん自体の影響、治療の影響、身体を動かす機会の減少などによって、筋力や筋肉量が低下することがあります。これをできるだけ防ぐことで、生活の質（QOL）を保てるだけでなく、治療効果を高められる可能性があります。具体的には、ウォーキングのような日常的に行う身体活動に加えて、筋力や筋肉量の維持・向上に有効なレジスタンス運動（筋トレ）を、ごく短時間でも取り入れることが大切です。動画では、自分の体重だけを負荷として、ゆっくりと動く筋トレ「スロートレーニング」について紹介しました。

運動というと、つらいもの、量をこなさなければならぬものと思われがちです。しかし、がん患者さんであれば、その日の体調に合わせて少し歩く量を増やしたり、椅子から手を使わずに立ち上がったたりすることにも十分意味があります。運動を長く継続するためには、患者さん一人ひとりの体力や治療状況に応じて、生活の中に無理なく運動を取り入れる方法を考える必要があります。

現在、私はセッションでも一緒させていただいた河原ノリエ先生、松橋延壽先生とともに、がん患者さんの運動に関する研究を始めたところです。医学と運動科学を結びつけ、患者さんが安心して実践できる運動のあり方を明らかにし、日々の暮らしに役立つ形で届けたいと考えています。今回のWorld Cancer Dayへの参加を、新たな研究と社会発信の第一歩にしていきたいと思っています。

8月26日
（火）
受付開始

げんきに 健康長寿！ 歩くことは 生きること

映画『歩く処方箋』上映会 & ウェルビーイング・トークショー

10月11日（土） 13:30～17:00

映画『歩く処方箋』の上映会と、トークショーを開催します。イベントを通して、「歩くこと」「美容と健康」「よりよく生きること」について考えてみませんか。

料金	無料
対象	どなたでも （小学生以下は保護者同伴）
定員	300人
持ち物	特になし
申込方法	窓口・電話・インターネット
会場	竹の塚地域学習センター 4階ホール

◆タイムスケジュール◆
13:00-13:30 受付開始・開場
13:30-13:40 開会のご挨拶
13:40-14:10 トークセッション「歩くことは生きること」
14:10-14:30 健康ウォーキング講座
～BEAUTY あなたにふたえたい～
14:30-14:45 休憩
14:45-16:45 映画『歩く処方箋』上映会
16:45-17:00 クロージング
※記載の時刻は目安時間になります。
※当日の状況により、
時間が前後する場合がございます。

特設ページ
はこちら▼

web申込
はこちら▼

HP

SNS

足立区



全国各地で、垣添先生とともに、「歩く」ということを中心にして東京大学スポーツ先端科学連携機構（UTSSI）共催にて一般社団法人アジアがんフォーラムと「運動」の重要性をお伝えしています。

ワールドキャンサーデーイベント運営後記

UICC日本委員会事務局・がん研究会 研究管理課

関本 敏之

毎年2月4日のワールドキャンサーデーのイベントには、運営側スタッフの一員として携わっております。コロナ禍を経て、多くの関係者が関わるイベントをリアルな場で開催できるようになり、準備段階からさまざまな業務に携わってまいりました。

イベント関連会社様との打ち合わせ、全国のライトアップスポットとの事前調整、登壇者のキャスティング、スポンサー様とのやり取り、プレスリリースの手配など、表からは見えない仕事は多岐にわたります。一つひとつの調整を積み重ね、それぞれがつながって、初めて一つのイベントが形になっていきます。

今回は、上野 賢一郎 厚生労働大臣のご紹介で彦根城と、大島 正伸 先生（日本癌学会 理事長）のご紹介で金沢城（石川門）の二つのお城をライトアップできました。さらに、全国各地のライトアップスポットは、都道府県や市区町村などの自治体をはじめ、多く

の関係者にご協力いただきました。歴史ある場所や地域のシンボルが、がんと向き合う思いを込めた光に包まれる。その実現に向けて、多くの方々と調整を重ね、イベント開催へと結実しました。（ちなみに彦根城は今年9月、世界文化遺産の国内推薦候補に選定されました。2028年の世界遺産登録を目指す大きな一歩です）

イベント運営では、時間どおりに進めることやトラブルなく終えるということにどうしても意識が向いてしまいがちですが、イベントを無事に終えることと同時に、がんについて考え、つながるきっかけを作るといった目的があります。今回もその「つながり」の一端を担えたのではないかと思います。2月4日のワールドキャンサーデーに灯った光が未来へと受け継がれていくことを願っております。



イベント運営準備中のひとコマ（毎年ご協力いただいている永田チームのスタッフ）

世界がんリーダーズ・サミット2025に参加して

一般社団法人アジアがんフォーラム 代表理事
東京大学大学院総合文化研究科特任准教授

河原 ノリエ

2025年11月18日から20日まで、オーストラリア・メルボルンで開催されたUICC(国際対がん連合)主催の「世界がんリーダーズ・サミット2025」に参加してまいりましたので、ご報告いたします。今回のテーマは「Bridging Divides, Building Futures」、分断を架橋し、未来を築く、というものでした。ビクトリア州がん協議会をはじめとする豪州の4機関が共催し、55カ国211機関から408名が集まり、108名が登壇、44のセッションが行われました。

会議は「変化する国際情勢とがん対策」「各国の取り組みとリーダーシップ」「連携の構築と人を中心としたケア」「構想から実装へ」という4つのテーマで構成されていました。国連のハイレベル会合の振り返りでは、開発資金が細るなかでの国内財源の確保と地域協力の重要性が議論され、各国からはトンガ、ブルネイ、カンボジアなど太平洋島嶼国の取り組みも報告されました。中でも印象に残ったのは、複雑な医療制度の中で患者さんを案内する「患者ナビゲーション」が独立した主題として扱われ、80カ国を超える国際アライアンスの発足が報告されたことです。がんを経験した方の声を専門知の一つとして扱うべきだという議論にも、深く共感いたしました。



会期中には、UICC-ARO(アジア地域事務局)として、多くの関係者との協議も続けておりました。特にUICC-AROの活動の軸となっている東京大学での「クロスバウンダリー・キャンサースタディーズ」講義の内容について、意見交換をする時間をいただきました。その中で、UICC加盟団体の皆様は次回以降の講義にご登壇いただくための打ち合わせも行い、いただいたご意見やご協力は、早速講義内容に反映させていただいております。

また、会期中には、5つの目標・5つの手段・5つの指標からなる「世界がん宣言2025-2035」が発表され、66カ国136機関が支持を表明いたしました。次回は2026年に香港で世界がん会議、2027年にケニア・ナイロビで次回サミットが開かれる予定です。今回得た知見や各国とのつながりをUICC-AROの活動にも活かしながら、引き続き皆様にご報告してまいりたいと思います。



TNM悪性腫瘍の分類

第9版 日本語版

がん病期分類の国際基準、8年ぶりの改訂

編著者 James Brierley, Meredith Giuliani, Brian O'Sullivan /
Brian Rous, Elizabeth Van Eycken

訳者 UICC日本委員会 TNM委員

定価 5,500円 (5,000円+税)

発行日 2026年9月25日

ISBN 978-4-307-00496-1

金原出版 A5変判・280頁

【第9版日本語版についての訳者前書き】

本書は、UICC (Union for International Cancer Control, Geneva) が2025年に刊行した“TNM Classification of Malignant Tumours, 9th edition, Wiley”の邦訳版であり、この第9版も、UICC日本委員会が翻訳刊行したものである。2017年に第8版が刊行されてから、すでに8年が経過したことになる。

今回の第9版の改訂は、第8版までの改訂と大きく異なる点があり、まずそのことを読者の皆さんにお伝えし、ご理解いただく必要がある。

TNM病期分類の改訂作業は、従来、UICCとAJCC (American Joint Committee on Cancer) とが、同期に協調して7年ごとに行ってきたものであり、分類内容それ自体は、それぞれが独自に1冊の書籍を刊行してきたとはいえ、両者が討議、調整のうえ基本的には同一内容となるよう準備、執筆されてきたものである。程度の差はあれ、すべての臓器の分類が改訂の対象となったのが、第8版までの改訂状況である。しかし、第9版からは、改訂についてUICCとAJCCとが異なった対応をとることとなった。AJCCは、全臓器がんの病期分類を一斉同時に改訂することは、マンパワー上の制約もあることから、改訂する臓器を選択し、それらの改訂された新しい分類のみを分冊で刊行することとしたのである。ACS (American College of Surgeons) より新たに刊行された“AJCC Cancer Staging System VERSION NINE”は、従来の分厚い本から、例えば訳者(浅村)が担当する“Lung”は、肺癌のみを扱う比較的薄い分冊へと変貌した。今回改訂のなされなかった臓器については、出版はされていない。改訂の行われなかった臓器の改訂は2031年を待たずに行われる予定であり、これを第9版と呼ぶのかについて、いささか混乱を生ずるかもしれない。一方、UICCにおいては、従来通りWiley社より、全臓器の分類を扱う“TNM Classification of Malignant Tumours, 9th edition”が刊行されており、本書はその邦訳版である。したがって、本書は、改訂のいかんにかかわらず全臓器がんを包含する合本となっていることをご確認いただきたい。さらに、本書は改訂の行われた臓器については、従来通り両団体間ですり合わせが行われており、基本的には同一内容の分類となっている。本邦の各臓器の病期分類担当者、がん登録関係の方々におかれては、今後の新しい分類の発表について注意を払われたい。また、お気づきの方もおられると思うが、日本語の訳語、“版”については、UICCが

従来通りの“Edition”を使用しているのに対して、AJCCは“Version”を使用することとなり、両者の間で相違が生じていることも、指摘しておきたい。

最後に、TNM 病期分類の今後の展望についても触れておきたい。もともと、“病期 (stage)”とは、がんの解剖学的な進展範囲と定義されており、これを、T (主腫瘍)、N (リンパ節転移)、M (遠隔転移) のパラメーターごとにそれぞれの状況を評価し、その組み合わせによって病期 (stage) を決定するというものであった。すなわち、がんの進展範囲は、解剖学的な定義を基盤とするものであった。しかし、近年の分子病理学的な知見の蓄積によって、がんの生物学的な理解、特に、種々の分子マーカーの検出、測定技術の向上とその病理学的な意義の理解が急速に進んでおり、これらの知見を病期分類にも取り入れる方向での検討が、UICC、AJCCにおいて活発に展開されるようになっており、2031年に刊行されるであろう第10版においては、これらの非解剖学的因子を包含した新しい病期分類 (TNM-B) が導入されることになるかもしれない。ただし、そのためには、データに基づく詳細な検討と、非解剖学的因子の測定方法の標準化が早急に検討される必要がある。このような点に留意して、今後の対応をお願いしたいところである。

今回の翻訳も、UICC日本委員会TNM委員会の事業として行い、全体のとりまとめと序論の翻訳は、UICC TNM Prognostic Factors Core Group (Geneva) 委員の浅村尚生 (慶應義塾大学・東京曳舟病院) とUICC日本委員会TNM委員会委員長の佐野武 (がん研究会有明病院) が担当し、各臓器については別掲する専門家の先生に分担してお願いすることになった。この場をお借りして先生方に深く感謝申し上げたい。翻訳を担当していただいた先生方からは、日本国内で広く用いられている各臓器の“取扱い規約”の“TNM分類”との差異についても、いくつかのご指摘をお受けした。しかし、翻訳の原則として、あくまでも原著に忠実に翻訳することとし、あえて脚注などは設けず、むしろUICCと取扱い規約の間にある差異が明確になるようにした。

UICC日本委員会としては、UICCの規定するTNM病期分類がより広く、日本のがん臨床に浸透することを祈念して、本書を世に送り出すこととした。

2026年8月

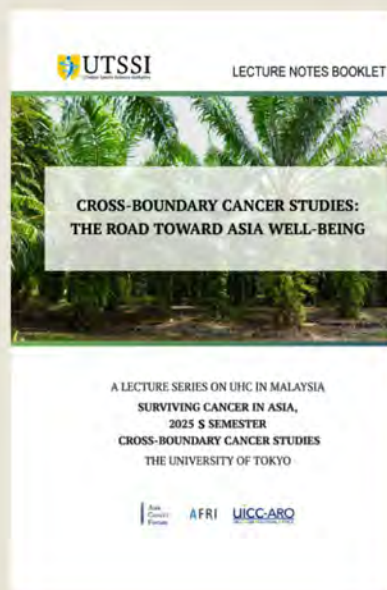
野田 哲生・浅村 尚生・佐野 武



16年目を迎えた 「アジアでがんを生き延びる」

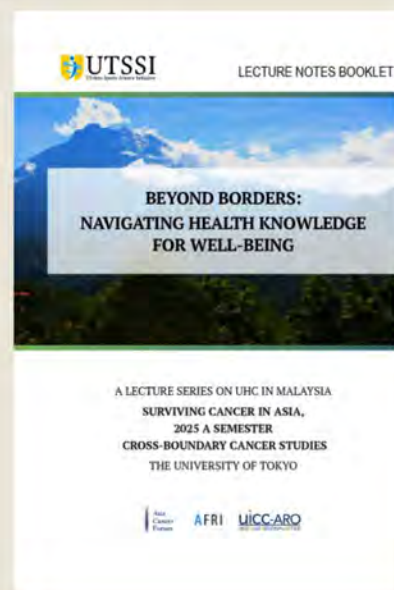
アジアをフィールドに、予防の社会的価値を考える学際講義

2025年度 講義録表紙



夏学期

講義録はUTokyo Repositoryにて閲覧可能です。



秋冬学期

夏学期 (2015178)

秋冬学期 (2015179)

がんを、医学だけの課題に閉じない。

UICC Asia Regional Office (UICC-ARO) と連携して2011年に始まった学際講義「アジアでがんを生き延びる」は、2026年度で16年目を迎える。がんを医学だけの課題に閉じず、暮らし、格差、制度、文化、国際協力を映す「社会の鏡」として考える場である。異なる専門や地域の知見を持ち寄り、個人と社会、地域と世界を往復しながら、よりよく生きるための問いを探っている。講義では、正解を一つに定めるのではなく、各地の制度、文化、生活条件が予防やケアにどう関わるかを互いに学ぶ。

2025年度から2026年度にかけては、アジアをフィールドに、予防が社会にもたらす価値をどのように可視化し、評価・換算できるかをテーマにしている。UICC本部と連携し、健康指標や医療費だけでは測れない教育、就労、家族、地域社会への影響まで含めて、予防への投資の意味を考える。2026年度夏学期は「The Social Value of Prevention」を掲げ、予防、検診、政治経済、官民連携を横断して議論を深めている。

受講者は、東京大学の留学生を含む大学院生と岐阜大学医学部の大学院生である。異なる専門性と経験を持つ学生が、がんをめぐる課題を自身の社会と結び付けて考え、問いを共有する。昨年度の受講生からは、アフガニスタンへの帰国後、講義で得た視点を生かして母国のUICC活動に携わっているとの報告がこの春に届いた。学びが国境を越え、地域の実践へとつながっている。

2026年度秋冬学期には、大学院向けの英語講義「Making the Social Value of Prevention Visible」に加え、初めて駒場の学部生にも日本語で開講する。UICC本部とUICC日本委員会の先生方の力添えをいただきながら、アジアから世界へ、がんを通して社会を見つめ、未来の行動を育む学びを続けていく。

UICC-ARO (UICCアジア支局/Asia Regional Office) は、国際対がん連合 (UICC) のアジア地域における活動拠点です。

主な活動内容

- ・ アジア地域での連携強化：アジア各国におけるがん対策の向上や、UICC運動の普及・推進を支援しています。UICCの戦略的活動およびグローバルキャンペーンの枠組みの中で、がん予防および患者ケアに取り組む現地のがん関連団体を支援しています。
- ・ 情報発信・学術活動：機関誌「Asian Pacific Journal of Cancer Prevention (APJCP)」を発行しています。
- ・ 国際セッションの開催：日本癌学会、日本癌治療学会などの場を通じて、国際的なシンポジウムやがんコントロールに関する議論を主導しています。



2026年9月28日 APOCP (アジア太平洋がん予防機構) 総会にてワークショップを開催します。



2026年9月25日 第85回日本癌学会学術集会では、インターナショナルセッションに参画しています。



2026年10月24日 第64回日本癌治療学会では、UICC-JSCO Joint Symposiumに参画しています。



東京大学で、学術フロンティア講義として連続講義を担っています。



東京大学で、Cross-boundary Cancer Studiesとしてレクチャーシリーズ「THE SOCIAL VALUE OF PREVENTION」を担っています。



2026年9月23日 香港で開催のWCC (世界がん会議) でのセッションに参画しています。

UICC 日本委員会加盟組織

愛知県がんセンター	(一社) アジアがんフォーラム	大阪国際がんセンター
神奈川県立がんセンター	がん・感染症センター都立駒込病院	(公財) がん研究会
(公財) がん研究振興財団	(公財) がん集学的治療研究財団	九州がんセンター
国立がん研究センター	埼玉県立がんセンター	(公財) 佐々木研究所
(公財) 札幌がんセミナー	静岡県立静岡がんセンター	(一社) 全国がん患者団体連合会
(公財) 高松宮妃癌研究基金	千葉県がんセンター	東京慈恵会医科大学
栃木県立がんセンター	新潟県立がんセンター新潟病院	(一社) 日本癌学会
(一社) 日本癌治療学会	(公財) 日本対がん協会	(一社) 日本乳癌学会
(特非) 日本肺癌学会	(公社) 日本婦人科腫瘍学会	東札幌病院
(公財) 北海道対がん協会	三重大学医学部附属病院	宮城県がんセンター

賛助会員 協和キリン株式会社 (山極-吉田国際奨学金)

UICC日本委員会 2026年役員

委員長	野田 哲生 (がん研究会)	UICC-AsiaRegionalOffice (ARO)	野田 哲生 (がん研究会)
幹事		UICC 本部	
総務	間野 博行 (国立がん研究センター)	Fellowship 委員	中釜 齊 (日本医療研究開発機構)
学術	垣添 忠生 (日本対がん協会)	TNM 委員	浅村 尚生 (東京曳舟病院)
財務	吉野 孝之 (国立がん研究センター東病院)	名誉会員	
ARO担当	野田 哲生 (がん研究会)	青木 國雄 (元愛知県がんセンター)	
予防疫学領域担当	松尾恵太郎 (愛知県がんセンター)	富永 祐民 (元愛知県がんセンター)	
ジュネーブ本部担当	中釜 齊 (日本医療研究開発機構)	大島 明 (元大阪府立成人病センター)	
事務局担当	大津 敦 (がん研究会)	北川 知行 (がん研究会)	
監事	増井 徹 (青山学院大学)	田島 和雄 (元愛知県がんセンター)	
	池田 徳彦 (国際医療福祉大学)	浜島 信之 (元名古屋大学)	
専門委員会委員長		日本委員会事務局 (がん研究会内)	
疫学予防委員会	松尾恵太郎 (愛知県がんセンター)	神田 浩明 (研究: 幹事会担当)	
喫煙対策委員会	望月友美子 (新町クリニック)	(埼玉県立がんセンター)	
患者支援委員会	吉野 孝之 (国立がん研究センター東病院)	関本 敏之 (事務: 委員長業務補佐)	
TNM委員会	佐野 武 (がん研究会有明病院)		
広報委員会	河原ノリエ (アジアがんフォーラム)		
小児がん委員会	中川原 章 (椎原寿恵会)		
対がん協会	桑山 朗人 (日本対がん協会)		

2027年度のUICC日本委員会総会は
7月24日(土) 12:00～14:30 経団連会館
(Web開催の場合 13:00～予定)

UICCホームページ : www.uicc.org
UICC日本委員会ホームページ : www.jfcr.or.jp/UICC
UICC-AROホームページ : <http://uicc-aro.org/>